

進化した ヒトとモノが 対流する都市、東京

～東京を国際的な経済活動の拠点にするために～

シンクタンク・ソフィアバンク

代表

藤沢久美

2040年

- 進化したヒトとは

- ロボットを使いこなし、自動化技術に慣れ親しんだ人々。
- 先端医療による移植技術等で、身体機能を拡張した人々。
- アンドロイドやロボットとの共存をする人々。

- 進化したモノとは

- 人間の機能を高めるために必要なモノは全て

なぜ、進化したヒトとモノが対流するのか？

- 20世紀

技術が進化したけど、人間の精神の進化がそれに追いつかなかった

- 21世紀

人間の精神の進化の実現が、社会の安定と発展に繋がる



- ヒトとモノの対流が精神の進化をうながす

東京が世界に、未来の都市像を提示し、貢献すること

= 東京が国際的経済活動の拠点となること

進化したヒトとモノが対流する都市にするために取り組むべきこと

- 実験できる。体験できる。確認できる。挑戦できる。適度な規制がある都市環境
- 最先端と歴史が共存する文化都市
- 安心して滞在できる場所（宿泊・住環境・医療・教育・自然環境・移動環境・・・）



東京の既存のモノを最大限生かして、
新たなヒトの対流を起こす

東京の既存を生かす

- センターコア = 未来のライフスタイル実現
 - 金融ゾーン（新しい金融市場の実験・ソーシャルファイナンス・フィンテックなど）
 - バイオゾーン（新しい身体拡張の実験・再生医療・ロボティクスなど）→ 自動運転など新たな科学技術と新たなルールに基づいた都市づくり
- サウスコア = 未来の研究開発拠点の実現
 - エネルギー生産（水素・エネルギー循環など）
 - 環境対応（ゼロエミッション都市の実現など）
 - 科学技術（新技術・新製品・新生産技術開発など）

新たな対流を生み出すために

- 規制緩和
 - 移動の簡便化、川辺の活用
- 科学技術の積極的活用と法整備
 - ロボット、自動運転
- シェアリングエコノミーへの移行
 - 空き家、少人数世帯を活用した宿泊サービス、移動手段の共有、シェアオフィスの整備、
- MICEの積極的活用
 - 都心のMICE会場、文化を感じるユニークベニューの整備
- 文化の保全
 - 歴史的建造物の保護、自然の保護、アーティスト支援
- アテンションエコノミーの活用
 - オリンピック・パラリンピックを最大限活用、スポーツ文化ワールドフォーラムの活用

最後に

- 20世紀の縦割り系列から、プロジェクト型統合の時代へ
- あらゆる課題を同時に解決する発想が求められる
- 全員参加（全世代の人、国内外の人、様々な分野の人、世界の技術など）
- 日本が持つ2000年の文化・歴史が価値を生み出す
- 対流促進型国土・都市型モデルを東京が実現し、世界に貢献する未来都市を実現する